

あわら市 DXの挑戦

暮らしが変わる、未来が変わる。

デジタル技術を活用し、市民の皆さんの暮らしをより便利で快適にする「DX（デジタルトランスフォーメーション）」を推進しています。これにより、市民サービスを充実させ、誰もが暮らしやすく幸せを実感できるまちを目指します。
令和4年度からスタートしたあわら市のDX推進のための取り組みを一部ご紹介します。

キャッシュレス決済



クレジットカード、電子マネー、コード決済などのキャッシュレス決済に対応しています。市民課窓口だけでなく、市営駐車場や中央公民館、北潟湖畔公園などでも利用できます。

書かない窓口

窓口における利用者の負担を軽減するため、申請書作成支援ソリューションを導入しました。マイナンバーカードなどを読み込ませることで、必要事項があらかじめ書類に印字され、手書きの負担が軽減されます。



コドモン（公立こども園・放課後子どもクラブ）・Home & School（小中学校）の導入



出欠管理や学校などへの連絡、学校などからの通知がデジタル化しました。また、園や学校での様子がアプリを通じて保護者に配信されるなど、利便性が向上しました。

市内公共施設に Wi-Fi 設置



公民館や子育て支援センターなどの市内公共施設にWi-Fi環境を整備しました。



回覧板のデジタル化



自治会業務のデジタル化を推進するため、区内でのお知らせや回覧板などをデジタル化しました。



外部人材の活用

ICTアドバイザー：末吉 廣美 氏



地域活性化起業人制度を活用し、AKKODiSコンサルティング株式会社の末吉氏を「ICTアドバイザー」に委嘱しました。「スマホ・タブレットよろず相談所」の開設支援や職員向けの研修など、あわら市のDXを推進するための基盤づくりをしました。

あわら市 CDO：平尾 憲映 氏



PlanetwayJapan株式会社代表取締役兼CEOの平尾氏を「あわら市CDO（最高デジタル責任者）」に委嘱しました。職員向けの研修では、DX先進国であるエストニアの事例を紹介し、職員一人ひとりがあわら市のDXを考えるきっかけとなりました。

市公式 LINE



広報紙やイベントの案内、防災情報など、さまざまな情報がスマホから確認できます。また、地震などの発生時（震度4以上）には通知が届くようになりました。

オンラインでの居場所づくり



ボイスチャットアプリを活用し、オンラインで集える場を創設しました。月に1～2回、参加者みんなでオンラインゲーム「マイクラフト」をプレイしながら交流しています。

産婦人科・小児科オンライン相談事業

スマートフォンから専用サイトや通信アプリを利用し、医師や助産師に無料で相談できます。



▲ 詳しくはこちら

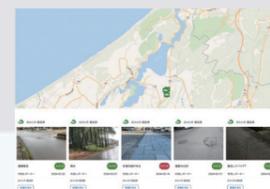
オンライン通訳サービス

タブレット端末を活用し、13言語と手話の通訳サービスを無料で利用できます。専門の通訳オペレーターが利用者と市職員の間に入り、通訳を行います。直接顔を見ながら会話ができるため、各種申請の時間が短縮されるほか、相談内容を正確に伝えることができます。



MyCityReport

スマートフォンアプリから道路損傷やカーブミラーの破損などを市に報告することができます。



市民サービス

スマホ・タブレットよろず相談所

毎週水曜日10時～12時に、「スマホ・タブレットよろず相談所」を開設。スマホやカメラの使い方など基本的なことからキャッシュレス決済まで、さまざまな相談に対応しています。参加者の中には、動画編集アプリやPayPayを使いこなす人もいて、確実に市民のスキルアップにつながっています。



▲ 申込みはこちら



シニアスマホアンバサダーの任命

「スマホ・タブレットよろず相談所」では、市民ボランティアの皆さんがスマホアンバサダーとして活躍しています。デジタル庁から「デジタル推進員」にも任命されました。

